

防長の自然学散歩－3

新日本百名山－東鳳翺山

山口市中心部の北に聳える秀麗な山、東鳳翺山は、登山家岩崎元郎が提起する「新日本百名山」に選ばれ、県内で最も人気が高い山の一つです。良く整備された五つの登山ルートに加えて、頂上からの360度の展望が楽しめるからでしょう。



山の成り立ちは、約3億年前に地下の深い所にあった堆積岩が、高い圧力下で再結晶して出来た、「周防変成岩」の一種の泥質片岩で構成されています。

また約1億年前、頂上西側に「広島花崗岩」という深成岩が貫入してきたため、この岩石が接触変成を受けて更に硬い岩になり、風化を免れてピークとして残ったと考えられます。一方貫入してきた花崗岩の方は、その後風化に依る削剥が進みました。頂上の西側直下が切れ落ちているのはこの為で、この部分に地質の境目があります。

登山案内書やネット等に依ると、この山は数十年前に山火事に遭ったため、それ以来展望が良くなったと書かれているが、それは事実ではないと考えられます。

山の植物に詳しい知人に依れば、昔は頂上付近にマツムシソウが咲いていて、草地であったと証言されており、事実この付近は変成岩が露出していて表土が乏しいので、木本類は育ちにくく、明らかに昔から草地であったと考えるのが自然です。

所で、東・西鳳翺山周辺には古い鉱山跡が点在していますが、これは周防変成岩と広島花崗岩の境界付近に生成された高温熱水鉱床の金属鉱山です。

その中で特筆すべき鉱山は県道62号線の板堂峠近くに在る、江戸時代初期に毛利藩が開発した「一の坂銀山」で、著名な石見銀山と並び称される、防長屈指の鉱山でした。登山のついでに鉱山跡を見学しようと出向いたのですが、ここを管理している「21世紀の森管理センター」が昨年廃止となった関係か、立入禁止になっていました。鉱山跡等の山中の史跡は、管理が不十分だとすぐに分からなくなる運命にありますので、引き続き整備して保存する様に、関係機関に要望して行きたいと思います。



山口市内から見た東鳳翺山



東鳳翺山頂上の岩石「泥質片岩」



東鳳翺山周辺の地質図

【お奨めスポット：本文の板堂峠を通っている、萩往還53kmの踏破も楽しいですよ】